

2014年
新春号
第 181 号

飛鳥

かわら版

ASUKA KAWARABAN

発行所
飛鳥出版室

発行人 永野 正将

〒780-0945 高知市本宮町65-6

電話 088-850-0588

e-mail: info@asuka-net.jp

http://www.asuka-net.jp



にいやつふ
北海道新冠乗馬クラブにて

新たな一年の始まりです。
馬のように颯爽と、力強く歩を進めて…

本年も「飛鳥 かわら版」をよろしく
お願い申し上げます。

ご挨拶	2
馬が教えてくれること	上月三千代 4
いろいろかいろ ㊦	安藝真一 5
キルギスタンからコンニチハ ㊦	氏原名美 6
文章力レベルアップ講座 (41)	水木和香 7
ヒナタクサイ日記 ㊦〈終〉	やまげんらう 8
ふれあいコーナー／寄贈図書紹介	10
催し物案内板	11
わが家の太郎 ㊦	永野雅子 12

◆スタッフ全員参加 午年企画
「ウマれ変わるなら!? 2014」

「風の人、土の人」「書籍解体新書」はお休みいたします

飛鳥「かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援します。

恭賀 新年



あけましておめでとうございます。

昨年は当社をご贔屓いただき誠にありがとうございました。

弊社は、一九七一年に先代の永野和宏が三十一歳で創業、以来今年で四十三年、出版室開設から十八年。この間本当に多くの皆様のご支援とご指導をいただきながら今日に至っております。

私が産まれたのは創業から三年目の一九七四年。両親の働く背中を当たり前のように見て育ち、子ども心に「後を継ぎたい」と思った時期、「親の敷いたレールなんか絶対走らない」と思った思春期、脛をかじり迷惑をかけた時期を過ごし、一九九八年に入社。その後も「辞めてやる」と反発した時期もありました。振り返ると本当に青臭い半生だったように思います。今、創業時の父より九歳年上となり「四十三年前、父は何を想ってこの会社を立ち上げたのだろう？」などと考えています。同時に、自分なりに「どうすれば社員が安心して働き、夢を語りあえる会社になれるか？」そんな事を日々考え、奮闘しています。

二児の父となった今、「大人になったら社長さんになる」と言ってくれている娘たちに、私が見てきた背中とは違った形の「親父の背中」を見せていきたいと思っています。

今年、前厄を迎えますが、そんなものはふっ飛ばして全力で進みます。

本年も私たち株式会社飛鳥をどうぞよろしくお願い致します。

株式会社 飛鳥 代表取締役 永野正将

飛鳥では下記のようなことにも取り組んでいます！

電子書籍

パソコンやスマートフォンで、紙の書籍と同様にペラペラとめくりながら閲覧できる電子書籍を始めました。

P D F では情報量が多くなるほど、読み込みに時間がかかり、なかなか閲覧できない…なんてことも。しかし電子書籍は、閲覧しながら同時に読み込むストリーミング方式なのでストレスフリー！

また、動画添付機能や文字検索機能、付箋機能、解析機能なども搭載。「どの本のどのページのどの記事がどのくらい読まれたか」なども解析することができます。

※お使いのパソコン、スマートフォンの動作環境によっては読み込みに時間がかかる場合もあります。



当社ホームページから「かわら版」をご覧ください。

高知 飛鳥 かわら版 検索

AR (拡張現実)

エーアール

ARとは、人が知覚する現実環境にデジタル情報を付加し、現実認識を強化する技術のことで、スマートフォンなどの現実の映像にデジタルコンテンツを付加するというものである。

アイデア次第で用途は無量大！



名刺に写真や挨拶映像



結婚式の招待状に映像



飲食店のメニューに
調理映像や原材料表記



不動産のチラシに
物件映像



楽譜や楽器カタログに
音楽や実際の音源



加工食品パッケージに
食材の写真や映像

まずは無料アプリの「COCOAR」をダウンロードしてください。

お使いのスマートフォンで「COCOAR」と検索しアプリをダウンロードしてください。アプリを起動しマーカー（読み取る画像）をスキャンするとデジタルコンテンツをご覧になれます。

下のマーカーをスキャンして下さい

動画を見る

電子書籍を見る



株式会社 飛鳥



今まで主流だったQRコードとの大きな違いは、マーカーはそのまま、表示される内容（コンテンツ）をいつでも何度でも変更できること。
今お使いの名刺やパンフレットにもそのまま組み込むことができ、ひとつの印刷物から無限大のひろがりがあります！

詳しく聞いてみたい！もう少し説明してもらいたい！！という方は下記へご連絡ください。

TEL.088-850-0588

E-mail info@asuka-net.jp

乗馬が趣味と言うと、驚かれることが多い。それは、馬が私たちの日常から遠い存在と思われているからではないか。

数年前、初めての北海道旅行で「ひき馬体験」に参加した。馬に乗せられて係の人に引いてもらい林の中を一周する。ほんの五分程の事が忘れられない出来事となった。その後、新聞の折込広告の中に「無料体験乗馬」の文字を見つけた時には、偶然よりも「運命」を感じ、「行くべき」と思い込んだ。「何事も始めるのに遅いという事はないよ」と娘の言葉に背中を押され、乗馬クラブへ。

始めてみると、同世代の女性の多さに驚く。シニアの男性、小中学生や障害を持つ人など様々な人との出会いがあった。どんな人も分け隔てなく受け入れてくれる馬たちは、優しい目をした身近な動物だと解った。

馬と過ごす短い時間は、ワクワク、ドキドキの連続。目線が高くなり視界が広がる。気分も爽快。風や光を受けて揺られていると心が晴れ晴れし前向きな気持ちになってくる。習熟度に応じて広い馬場^{ばば}で

のレッスンに移り、一定レベルの認定を受けるなど、海岸や高原などの自然の中での「外乗」にも参加できる。能登の海岸、北海道の広大な森林や草原を馬で駆けて乗馬の醍醐味を満喫。モンゴルの大草原を馬で駆ける夢も膨らんだ頃、壁にぶつかり迷



石川県 能登・千里浜（2011年5月）

スムーズに行く時もあれば、ちぐはぐなままに疲れ果てて終る日もあり、不満を馬のせいにしてしまう。そんな時、ベテランの指導員さんが「馬たちは皆いい子ですよ」と一言。

言い訳やごまかしは通用しないという事だ。人より人を見抜く力があるのか、馬は乗り手の技量を一瞬で判別するらしい。本当に賢い。低調が続いたある日、歯が痛く口の中も腫れて体調不良でレッスンに参加した。「今日は最悪やろな」と何

「馬は生まれた時からずーっと馬ですから」と禅問答のような会話をして、心が軽くなる。

どうして解るのだろう。分厚くて硬い鞍の上に座っている人の気持ちや体調まで。

馬がしゃべってくれたらいいのになあ……。不思議で奥の深い馬とのコミュニケーション。

焦らず、侮らず、諦めず、という事かな。モンゴルへの夢はまだまだ遠いけれど、馬の背に座ると「急がず、のんびりやろうよ」と教えてくれるように思えてくる。

「でも、真剣に本気で伝えてくれないとサボリたくなるよ」とも。

馬と出会えて、こんなに濃い時間を過ごせている事に感謝している。

うま年のこの一年は、もっと馬^{うま}にこだわって過ごしたい。馬に関わる各地の伝統行事を訪ねたり、馬のグッズを集めたり。

「馬しか通わぬ」と言われた高

知果の馬路村

にも是非行ってみたいと思



（こうづきみちよ／兵庫県）

馬が教えてくれること

上月三千代

路へ入り込んだような気分になった。

さらに広い馬場でのレッスンに進んだものの、思うように動いてくれず、焦って姿勢が崩れると、意に反して馬はますます逸れて行く。馬の性格も千差万別、気が合って

も考える気力が無いまま終ると「スムーズに行けましたね」と指導員さんに誉められる。「え、体調が最悪なんですけど」「きつと馬が助けてくれたんですよ。馬を信じればいいんですよ」「あ、はい」

冬陽

安藝眞一



「おうかがいとごきとう」という墨書きの白い紙が、町のあちこちの電柱に貼り付けられていた頃がある。戦前も戦中も戦が終わってからも、その白い紙が風に揺れている見馴れた風景だった。

「おうかがい」というのは祈禱師の事で、私の母はとりわけこれが好きだった。漆器商の家に嫁いで戦火を抜け、焼け跡に父と二人で店を再興したもの、破壊された世相と漆の商いは相い容れようもなく、賑やかな街にあって、明日をも知れぬ金の苦勞。店のこと、家族のことのあれこれを誰かに占いをたてて貰い、教えられ、気を鎮めて前に踏み出したい。そういう願いが母の日常に充満していた筈だと今、思う。

「おうかがい」に行く時の連れは、いつも私で、姉でも弟でもなく、私も母と居る事が好きだったので夜更けの路地奥の祈禱師の家や、芒の原を抜けた不気味な占いの師の庵などにもノコノコ従っていたことが幾度かあった。

或る日、「東京へおうかがいに行くぞね」と母がいった時は、私も嫁取りが済んだ歳になっていた頃だったが、いつもの慣れで随行することにした。都心から西に離れた雪のぬかるみを歩いて、その道場の門をくぐる。真新しい大広間に通されると、そこは百畳程の広さで、信者らしい一群れが寄り添って祭壇の前に坐っていた。それも広さの三割程の面積だから七十畳程は空いたままで、これで靈驗あらたかなりやと訝しい思いが胸をかすめる。やがて立派な和服姿の教主が登壇。厚さ五センチ程の原稿紙を机上に置き御講話がはじまった。ところが、原稿の三枚目程をめぐって次へ進もうとする時、一陣の風、吹きかかり、その頁の紙がふらりと畳の上に落ち、慌てた教主が、それを拾おうと動いた肱が机の角に当たって更にハシリハラリと原稿紙が次々とほとんどが落ちて舞った。身じろぎも

せずに坐している信者の群れの前の畳に散乱した原稿紙を教主は眼をせわしなく動かして拾い集めにかかる。「五」の次は「六」六の次は七。あ、これは「九」七、七、「七」つづいて八。これは「十三」！「十」もない。思い余った

教主は正月の歌留多よろしく一枚ずつ丁寧になべはじめた。と、その時、南面の長い廊下を一人の女がヒタヒタヒタと歩いて祭壇の奥に消える。教主は知らぬ顔で原稿を追い探している。消えた女は今度は、北面の廊下の上に現われ、少し歩を速めて立ち去る。教主の原稿はまだ中々まとまらない。突然、警報器のような音が鳴り響いたが、信者達も静止したままで教主の手元を見つめている。すると又、南の廊下を今度は小走りの女が現われて勢いつけて祭壇の奥へ。警報器の音、再び鳴りひびく。その時、庭に面した障子、荒々しく引き開けられ、雪片と共に銀色の鎧をつけた男達の集団がなだれ込んで来た。流石に信者の群れも立ち上がった時、アナウンスの声。大きく「ただいま神殿の裏で火災が発生しました！ ただちに避難してください！」仰天した私は、母の手を引き寄せ急ぎ出口に向っ

た。振り返り広間を見ると蹴散らされた原稿紙を教主はまだ数えつづけている――。火は消えた。消防隊や警察の面々の狼藉もおさまり広間は立入禁止となった。

気を抜かれて立ちつくす私の手を、今度は母が取り「教主様に会うぞね。応接室へ行くき」という。やっと「おうかがい」の始まりかと従って行くと、先程の教主が恬然と私に笑いかけて椅子をすすめてくれる。挨拶のあと教主はシガレットケースを開けて「どうかね？」と煙草を差し出す。「あ、どうも」と私は一本抜きとり、眺めると菊の紋章が金刷りされている。これは恩賜の煙草ではないか。何故この家にこの紋どころが？と思いつく火を点けて一息吸う。途端に母の手が伸びて、私の口から煙草を引き抜いた。「勿体ない事、しなさんな！ 大事に戴いて帰らんかね！」と一喝。おうかがいが、頭の中ではじけてカラになった――。

見上げると、よく磨かれた硝子窓の向こうに冬陽に光る青空がひろがっていた。その日は二月十一日。昔はこの日を紀元節と呼んだ筈である。



キルギスタンからコンニチハ



うじはら なみ
高岡郡越知町生まれ／北大でロシア語を学ぶ／2001年からキルギスに在／国立ビシケク人文大学日本語日本文学科学科長

ス・ノーヴィム・ゴードム！

(謹賀新年)

氏 原 名 美

雪の中を駆けるトナカイの写真を娘のアイフォンに送った。三歳の孫に宛てて「サンタさんの機を引くトナカイさん、もうすぐプレゼントを運ばなきゃならないから、練習しているところ」と書き込んだ。娘は「うちはムスリム（イスラム教）だからサンタは来ないよ」と、にべもない。日本に越したばかりの娘一家、出費がかさんで火の車、プレゼントなんて期待させないで、と言いたげだ。

新年を前に、ビシケクでは街路の樅の木の飾り付けが始まった。大学構内にも電飾ツリーが据えられることになる、学生はいよいよパーティーと期末試験の準備に忙しくなる。

「キルギスでもクリスマス祝うんですね、ツリー飾ってますもん」とキルギスの年末は初めての日本人が言うから、「あれはヨールカといって年越しのシンボル、暮れには樅の木市場が立ち、子供たちはチエット・マロースという寒さのおじいさんを楽しみに待っていて」と、旧ソ連圏年の瀬事情をひとくさり。

チエット・マロースは、極寒を畏怖する東スラブの民俗信仰に基づく、ソ連時代に宗教色抜きの白ひげの「お

じいさん」となった。豪華な毛皮のガウンを身にまとい、手には魔法の錫杖。「おじいさん」は大晦日の夜「万国の幼年諸君」に新年の贈り物を届けにやってくる。トナカイの機で飛んでくる代わりに、スネグーラチカ（雪娘）という孫娘を伴っている。

最近では暮れの街をサンタクロースが歩いていたりする。ソ連が崩壊してから、極寒大明神は聖ニコラウスにおされ気味なのだ。「メリー・クリスマス！」なんて声も聞く。キルギスは、神仏習合の日本同様、精霊崇拜からシャマニズム、イスラム・スナ派まで何でもありの至っておおらかな宗教風土だ。そのうち首都を赤鼻のトナカイが走るかもしれない。

孫の家でも、キルギス人の父親からして豚肉に舌鼓を打っている。何が「ムスリム」なもんか。孫にはその母親経由で「サンタさんは神様を選ばないからね」と、再度メール。

次の日、娘からの返信に「画像のせいでアイフォン取られた。トカナイ・トカナイって握りしめて離さない」とあった。寒さの「おじいさん」ならぬサンタの「おばあさん」になったような気がした。



変わるなら?!

二〇一四

うま年に
ちよいとひとつ
ウマイ話でも!!
年の初め
飛鳥スタッツの
脳内大調査!



幼い頃、「今の自分の脳みそ（思考）のまんまで他の人の身体に生まれたらどうなるんやろ...?」でも別の身体ってことは違う家に生まれるってことやから、そうすると性格も違ってくるってことで...それってもう今の自分とは違ってるってことで...あれ?（以下、堂々巡り）という哲学的な(?)思考回路を彷徨ったこともありました。子どもの時って面白いこと考えるよなあ。

かなと漢字を使い分ける

水木 和香



みずき わか
高知市在住。フリーライター、
生涯学習コーディネーター。
文章教室や漫画の原作教室など
高知市を中心に開催している。

「そういうことをいうから喧嘩になる」「みたまを描いてみた」という文章を書こうとして、これらの「いう」や「みる」は、漢字で書いたほうがいいのか、ひらがなのままでいいのか、迷ったことはありませんか？

かなと漢字の使い分けには、次のようなルールがあります。

①その前に付くひらがなと混同して読まれやすい言葉は漢字にする

- ・おそろしいいいつたえです。
↓恐ろしい言い伝えです。
- ・ふろにはいつてくください。
↓風呂に入ってください。
- ↓風呂には行って下さい。

②その動きを実際に行う場合や、実物がある場合は漢字を使う

- ・花田さんという人は、文句ばかり言う。
- ・悪い事だと分かっているなら、もう止めることです。
- ・柳小路は聞いていたとおり、寂れた小さな通りでした。

③動詞にくっついた単語（補助動詞や、元々の意味が薄まってしまっている場合はかな書きに

する

- ・あの人とは切っても切れない仲間だけれど、もう底いきれない。
- ・見たまを描いてみた。
- ・マラソン大会に出るかぎりには、力の限り走って、優勝したい。

④ひらがなにする言葉（接続詞など

- ・私たちは、子どもたちのために、ともに頑張りましょう。
- ・小学生および中学生は校内に1泊するか、あるいは直ちに下校すること。

※法令文のみ「及び」「或いは」と書きますが、他は全て かな書きです。



次の太字部分は、かなと漢字のどちらがいいでしょうか？

【問題】

- A 京都にいくと聞いて、ついていくことにした。
- B 弁当を作ったあげたのに、棚にあげたままだった。
- C 金目のものが、ものを言う世の中です。

【解答】

- A 京都に行くという聞いて、ついていくことにした。
- B 弁当を作ったあげたのに、棚に上げたままだった。
- C 金目の物が、ものを言う世の中です。

私は生まれ変わったらもう一度永野雅子になりたいと思います。

多分前世の記憶はないだろうけれど、DNAには記録されているでしょうから、あの時この時のことを修正して、御恩になった方たちに「倍返し」できたらいいと思います。

(永野雅子)

生まれ変わるなら……うーん、めんどくさがりの私には生まれ変わりたいものなど、ない！過去にはいろいろあったよ、うな気もするが、わすれっぽいので覚えていない。ただ、高校生の頃、ぺんぎんになりたかった記憶はある。でも、「なりたい」だから生まれ変わりたいではないんだな。

(嶋崎)

今、十分満足しています。現実逃避している様で、今の現状を打開できない考えの様に思っています。生まれ変わっても今の自分でありたいです。

(黒原)

ヒタタツイロ記その十七（最終話）

コタツ（炬燵）

by やまげんらう

（香南市在住）



今年（二〇一三年）の秋、高知県のPRソング「高知家の歌」（作詞・カツオ人間、作曲・岡本真夜、歌・島崎和歌子）というのが作られた。テーマは「高知は一つの家族やき」だそう。さっそくインターネットの動画サイトで見てみると、そのプロモーションビデオには、はりまやばしや空港などいろんな場所に置かれるちゃぶ台を見知らぬ人同士（ほとんどが素人さんらしい）が囲む映像がいくつも出てくる。登場人物たちは、座るときこそ遠慮がちだが、すぐに親しくなって笑いながらお酒を酌み交わす。その表情といい動作と

いい、土佐人の人懐っこさがよく出ていて、嬉しくなって何度も見た。映像では「ちゃぶ台」は、人をつなげる重要な道具として出てくる。たしかに私たち日本人にとっては「家族」の象徴的存在だなあとと思う。しかし、家族の滞在時間とか、気持ち近くなるというところで言うと、実はコタツの方がずっとスゴイと思っている（当社比ですが）。コタツこそ、家族を結わえる最強のアイテムなのです！ というか、みーた（小六）に言わせると「コタツは魔窟やねえ」である。ひとたび足を入れるとなかなか出られない（とくに朝）。

たまにコタツぶとんの裾をめくると、中から教科書や生乾きのを乾燥させようとして入れっぱなしの洗濯物などがどっさり出てくる。たしかに魔窟……。

コタツときて思い出すのは、みよみよこ三歳でみーた一歳のクリスマススイブ。夕飯が終わって憩いのひとときをコタツで過ごしていると、サッシ越しに見える庭に人影が横切った。それはサンタに変装した姑だったのだが、みよみよこは恐怖で大泣きし出し、みーたもつられて大合唱となった。そんな中、玄関に到着したサンタは、低い声で「コンバンワ」。その

ウマレ変わったら何になりたいか……。

とにかく平和な国に生まれたいです。そして、娘たちとどこかで繋がっていたらいいなあと思います。（永野美佐）

小さい頃は鳥になって空をすいすい飛んでみたいと思っていました！ 飛行機に乗る機会がほとんどなかった子どもに私にとって、空は未知の領域だったのです。鳥になったら好きな所へ自由に行けるし、眺めも良さそうです。まあ一番の理由は、通学路が長かったから……なんですけれども。（安國）

私は小さい頃、漫画に影響を受けてサツカー選手になりたいと思ったり、漫画を読むから描く事に興味を持ち、漫画家になってみたいとか思っていました。今は社会人になって、なりたいたいものはやっぱりお金持ち。それが不老（二十歳ぐらいです）と若いままになってみたい。

二〇一四年は明るくウマレ変わりたい。（中村）

声を聞いて、さらにヒートアップするコーラス隊。かわいそうであるが、私も嫁としての立場が……なんてことで、二人を無理やり玄関に連れて行き、「サンタさんが来てくれたよー」などと言ってみたりして。すると『サンタ』に反応した二人は一瞬泣き止み、ガッツポーズの私。ところが、そんな二人にサンタが低い声で「悪い子はいねえかー」なんて言ったもんだから、二人はプレゼントも受け取らず、泣き叫びながら走って逃げ、コタツの中に潜り込んでしばらく出てこなかった。(悪い子はいねえかーはサンタじゃなくて、秋田のなまはげですよ、お義母さん)

あのときビービー泣いていたふたりも今ではすっかり大きくなり、潜ってもコタツから手足が出るようになってしまったが(まるで亀だ)、コタツが私たち家族の憩いの場であることに変わりなく、寒くなると「コタツはまだか」と楽しみにし、出たらもう宿題、読書、テレビ、食事、昼寝、夜寝るとき以外ずっとコタツで暮らしている。そりゃ魔窟にもなるはずだ。

そうそう。コタツで忘れてはいけない大事なミッションがある。さりげなくサンタへのプレゼント

リクエストを聞くことである。暖かいコタツは子どもの警戒心を解く。「なんでこんなこと聞くんやろ。アヤシイ」なんて思わない。というわけで、今年もいつてみよう。「みーた、サンタに何をお願いする？」

ところが、今年のみーたは違ったのだ。た。「お母さん、実は僕は去年、衝撃の事実を知ってしまったのです」え??「去年のクリスマス朝、早くに目が覚めて枕元を確認したらプレゼントがなくて」なんだか嫌な予感。「そして部屋が開いて、シャカシャカという音がして、ゴン! 落ちて落とす音がして、拾って僕の枕元にそれを置いて、シャカシャカ出た」……。「あれは絶対、防寒ズボンを履いたお父さん。サンタの正体やね」あわわわ。

みなさんはこういうとき、どんなふうな態度をとりますか。私はですね、突然の出来事に動揺しまくって、目が泳いでしまったです。そんな私を見て、みーたの「やっぱり」という顔。横で話を聞いていたみよみよこが「サンタが親って、当たり前やろ」とダメ押し。その後はもういくら英魚が「オレはプレゼントがあるかどうか確認に行

っただけや」とか言っても、ふたり揃って口の縁だけ上げてヘツと笑うだけ。だから廊下に置いたら? って言ったのに! (覆水盆に返らずってやつか)

なんでもかんでもコタツの中でやってしまいうやまげん家。しかしまさか子どもが大人への階段を登る姿まで、コタツの中で見ることになるうとは。子どもの成長は嬉しい。しかし、今回ばかりはちょっと苦しいな英魚と私だった。

今、この原稿もコタツでパソコンを使っている、横では子どもたちがテレビを見ている。どうも、こういうなんでもなさなコレクションのように増えていく家族の歴史というのができていくということが、最近ようやくわかってきた。これもコタツのおかげかも。

さて、五年間おつきあいいただいた『ヒナタクサイ日記』、今回をもって終了です。みなさん、ありがとうございました。



——やまげんさん、長きに渡り、心温まる子育てエッセイをありがとうございました。

「生まれ変わるなら何になりたい?」……それはやっぱり人です。人間です。猫の世界を体験したい気持ちもあります。飛鳥の「太郎」と替わってやりたい気持ちも(太郎もきつと生まれ変わるなら今度はヒトにと。)ありますが。

(中内)

私は小さい頃は生まれ変わるなら「男」になりたいと思ってました。理由はバレンタインです。チョコが好きなので貰えるなんて羨ましい! なんて父のおこぼれを貰いながら思ったことでした。その頃はまさか日本独特の習慣だったとは思いません。今は生まれ変わるなら、楽しければどちらでも良いかなと思っています。

(平山)



ふれあい

コーナー

たくさんのお年賀をいただき、
ありがとうございます。日頃出版
版室に頂くお手紙と併せてご紹介
いたします。

二〇一四年 賀状より

▼…そちらで出版しました「昭和
の矢井賀」「親子二代の自分史」
大事にして読み返しています。季
刊紙もお送りくださりなつかしく
読んでいます。

（中土佐町 戸田起子様）

— 思い出したいときに変わらぬ形で
蘇る。自分史の魅力のひとつですね。

▼…屋上で忘年会。寒いのにパー
ベキュー忘年会やるといふ。気温
は三度だがコタツに入ると暖かい。
焼きたてのタラバやおでんで熱燗
をやる。空には冴えた月が輝いて
おり、至福のひと時を味わった。

（新風書房 福山琢磨様）

— 読んでいるだけで口元が緩みます。
寒い中で温かいもの、最高です！

▼…これまでに設定した健康寿命

が間近となった現在でも、まだ健
康に恵まれていますので、設定の
延長を考えております。二〇二〇
年には東京オリンピックが開催さ
れることになったのを期に、健康
寿命を八十六歳に再設定しようか
と考えております。

（高知市 森惟明様）

— 昨年、二冊の著作を出版された森
先生。今年も益々のご活躍をお祈り
いたします。



芸西村

墨のかおり工房アトリエ
後藤真知世様

お手紙より

▼…来年（二〇一四年）後半の予定
として第九詩集をセットアップし
ておりますのでまたうまい作成を
よしなによしなに!!

（南国市 ウカイヒロシ様）

— 昨年は『散文集 蜻蛉紀行』のこ

出版おめでとうございます。詩集も楽
しみにしております！

▼…なんだかついてない連続：と
しょんぼりしていたところへ郵便
屋さんが「かわら版」を：♡ さ
つそくあけて「いろいろかいり」
を読み：自分でも知らぬ間に息を
つめて読んでいた様で：ハア！ま
つこと：命にかかわる事がすぐ目
の前にあつた時代のことを思うと
：何だろう自分の不安は：とつく
づく…。そして一番のお楽しみ
の「わが家の太郎」くんのお話とか
わいらしい小夏ちゃんのお話を
読んだら、心がスーッとさわやかに
もりもりと元気が出て来てクヨク
ヨ考える間に出来ることしよつと
この葉書を書いております。

（高知市 うみさとくじら様）

— 前号の「いろいろかいり」は胸を
突きましたよね。かわら版スタッフは
このお手紙にとても力を頂きました。
ありがとうございます。

寄贈図書紹介

▼土佐史談 234号「昭和史」特集
号／土佐史談会

ありがとうございます

自分が何かに生まれ変わっ
ても、きつと大した頭脳も持
ち合わせず努力もしないだろ
うから、どうせなら犬に生ま
れ変わり常務の愛犬・太郎に
色々話を聞きながら、太郎の
目線から見た人間模様などを
この「かわら版」に投稿した
いです。やっぱりタイトルは
『吾輩は犬である』でしょ
うか。

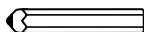
（川田）

まず映画のプロデューサー
になり『ムーラン・ルージュ』
で有名なバズ・ラーマン監督
を起用し、予算一〇〇億ぐら
いで映画を作ります。吸血鬼・
狼男・フランケンシュタイン
など古き良きモンスター達を
集結させた笑いあり涙ありの
豪華絢爛なミュージカル映画
を製作します。

（谷本）

昔は、「駄菓子屋さんのお
店屋さんになりたい」と思っ
ていました。と言うのも、昔
近所の子どもたちと、お店屋
さんごっこをして、くじ引き
を作つて店を出して遊んだか
らです。昔のくじ引きを作つ
たり、現代風なくじ引きを作

雑書き



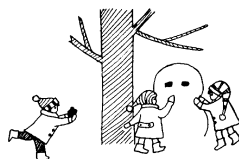
◆年に一度の帰省。大晦日、実家に着くなり母が「去年末、あんた『年越しは焼きそばでもええやん』とか言うたやんなあ?」：はい!? 全く記憶にございませんが? 後から帰ってきた兄弟にも確認してみたが結局のところ言質の出所は明らかにならなかったようだ。かくして、

わが家は「海鮮塩焼きそば」で年を越しましたとき。：ま、いーんやけど。
◆その人は昨年定年退したと言われました。「あちこち転勤はありましたが、どの職場も忙しく懸命でした。定年前一年くらいは最年長ですし、皆が労わってくれました。上司までがそれで、無事に退職しました。家は寝に帰るところ、と

いう感じでしたから、終の棲家である我が家の地域のお手伝いでも：と。ところがどうでしょう。まわりは高齢化しており、私は青年扱いです。すっかり若返りました」で、大笑い。「元氣な皆さんは七十代は主力、八十、九十歳の方も居てみんな女性」とのこと。彼の定年は地域の活性を呼ぶことでしよう。嬉しい会話でした。(○)

催し物案内板

〈1月～4月〉



カンブリア紀～白亜紀を生きた魚たち

化石水族館 友永たろ・魚イラストの世界

と き 1月29日(水)～3月9日(日) ※毎週月曜休館

9:00～17:00 (入館は16:30まで)

ところ 越知町立横倉山自然の森博物館

入館料 大人500円、高校・大学生400円、小・中学生200円

20名以上の各団体は100円引き

関連企画 参加型ワークショップ「作ろう! 自分だけのお魚缶バッジ」

【とき】3月8日(土)、9日(日) 10:00～15:00 (お昼休憩あり)

【参加費】100円 ※随時受付

沢田明子 展 一命のはなびらー

と き 2月22日(土)～3月23日(日) ※毎週月曜休館

9:00～17:00 (入館は16:30まで)

ところ 香美市立美術館

入場料 一般 300円 (20名以上団体料金 150円)

※長寿手帳提示150円、身体障害者手帳提示無料、高校生以下無料

関連企画 ギャラリートーク

【とき】2月22日(土)14:30～ 【ところ】展示室(※入場料要)

館長または学芸員による作品解説

【とき】毎週日曜日14:00～ 【ところ】展示室(※入場料要)

★初日は14:00よりオープニングセレモニーを行います

第63回 桜雲書道会百人展

と き 4月1日(火)～4月6日(日)

9:00～17:00 (最終日は16:00まで)

ところ 高知県立美術館 県民ギャラリー

第3回 高知毎日書道展

と き 4月15日(火)～4月20日(日)

ところ 高知市文化プラザ かるぽーと7階

第1・第2展示場

三山ひろし デビュー5周年記念コンサート

と き 4月26日(土)

【昼の部】開場12:30/開演13:00 【夜の部】開場16:30/開演17:00

ところ 高知県民文化ホール オレンジ

入場料 1階のみ SS席 5,500円 S席 5,000円

チケット販売 高知県民文化ホール・高知大丸・ミュージアムショップ

サークルミュージック・ドデカゴン

ったり、そして、色々なくじ引きを考え出して、お店を出したかったです。(武村)

私は『ズマッ! 変わるなら何になりたい』というより性格を直したいです。(学生の時は、○○になりたい! □□になりたい! とかありましたが)かなりのネガティブシンキングなので、少しでもポジティブシンキングになりたいです。(西本)

生まれ変われるとしたら：大好きな花? と思いながら新年を息子一家と迎え、娘たち家族も加わり、全員集合のにぎやかなお正月を過ごしました。元氣いっぱい楽しそうな孫たちの笑顔を見ていると、やっぱり今の私として、今度は日本の国で生まれ育ちたいと感じました。今年もみんなにパワーをもたらって頑張ります。(浜田)



わが家の太郎

新年

永野 雅子

ポリセ
今年もよろしくネ!



穏やかな新年を迎えて、太郎との初散歩に出かけると、いつもの散歩コースが清々しい。

慌ただしかった暮れのあれこれも年が改まるとすっかり過去のことになる。

いつもと同じ昨日に続く今日だけれど、新年というのはなぜか心新たな気分になさしてくれる。

「今年こそ」と思うことがいくつある中で、特にこれだけは「不言実行」といきたいのが「整理整頓」。

長年、仕事優先の生活を続けてきて、一番後回しになったのがこれ。去年も十一月頃から空いた時間を見つけては、年の瀬になってバタバタしないようにと心がけて来たつもりだけれど、お掃除モードのスイッチがオンになったのか、いざ大晦日が近づくと、あれもこれも出来てないと、普段は気にも

ならないところが目について焦りに焦る。

畳を拭きながら、ふと思い出した棚の本の位置を変えて戻つてくると、さてどこまで拭いたやら…。

二階に物を取りに行つて、カーテンを閉めて降りてくる。

「アレ? 何のために上がったかしら」

結局三十一日は紅白歌合戦を横目で見ながらおせちの準備に生け花にと、相変わらずの年越し。

夫の「お母さん、掃除をせんでも正月は来る。まあ、えいわね」という声が聞こえてきそう。

そうだ、出来てないところをいらいら思うのをやめて、出来たところを見て喜ぼう。などと思いがら、それでも年越しそばを作った頃には、新年を迎えていた。

夫の写真に
「お父さん、明けましておめでと

うございます。今年もよろしく」
今日は息子一家がやってくる嬉しい日。

さて太郎にとっては新年も何もないわけで、いつも留守にする主^{あかじ}がこここのところ家にいるものだから大好きな「元氣ガム」をゲットしよう^{あかじ}と、「クーン、クーン」と鳴き止まない。

食事に影響するからと敢えて無視すると、「それならば」とばかりハンガーストライキに入つて二日間一切餌に口をつけない。この寒空に外で寝ている。

この頑固さにはこちらが根負けして、というより心配になつて、おやつを差し出す始末。

やれやれ、今年も相変わらず太郎との駆け引きは続くのだろうか。

(ながのまさこ／飛鳥常務取締役)

自分は、生まれ変わったもやはり「永野正将」になりたい! たくどくしく、誰しも思つたことがあるであろう「今の記憶のままで!」生まれ変わるといふより、もう一回人生をやり直してみたい(今の記憶を残して)! その心は「もつと勉強しとけばよかった」「あの時あしとけば人生変わったかも」「若いうちにもつと旅に行けばよかった」「宝くじを…」未練だらけですね! スミマセンヨ(「ヨ」これからの人生をしっかりと頑張ります!!

(永野正将)

「ウマれ変わるなら…」なんて夢想しつつ、現世でもウマくいくよう頑張りたいですね! ご協力ありがとうございました!

